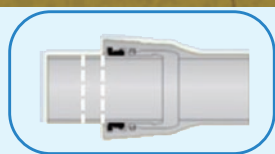


耐震継手ダクタイル鉄管 NS形E種管

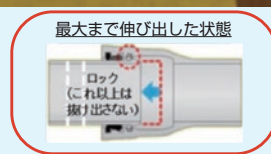
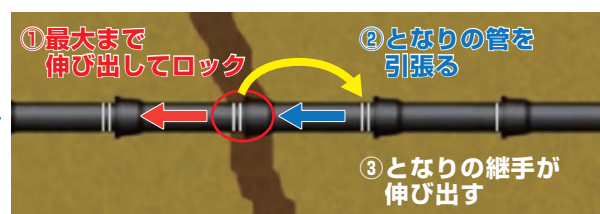
【JDPA G 1042-2 呼び径 75～150】

■ 実績のある鎖構造による耐震管路を構築できます

- ・局所的に発生する地震時の地盤歪を複数の継手の伸縮・屈曲により吸収できるため、管体自体が伸びたり、地盤の圧縮により座屈が生じることはありません。
- ・この鎖構造により、繰り返しの大地震にも耐えることができます。



【平常時】



【地震時】

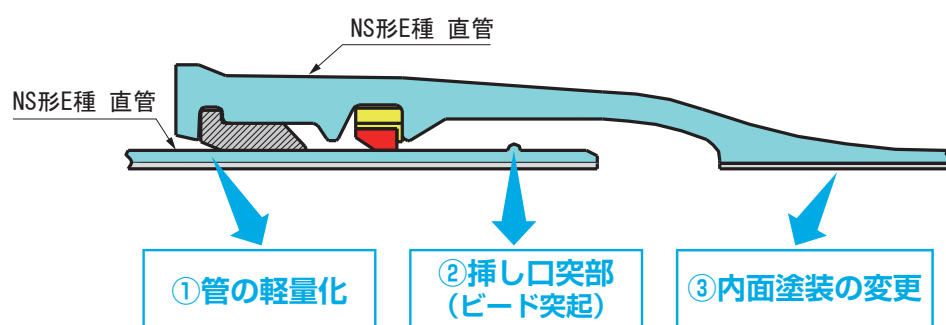
■ 水圧や地震等による大きな力が作用しても材質劣化しない管材です

- ・ダクタイル鉄管は、管体の引張強さや伸びなど材質が長期間使用しても変化しません。

■ NS形3種管より軽く現場での取扱いが容易です

- ・呼び径 75 は人力でも吊込み据付が可能です。

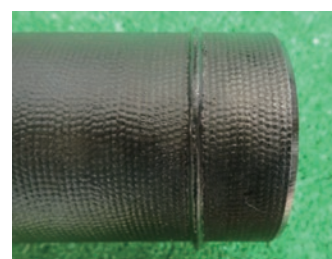
【直管】 技術開発による低コスト・軽量化の実現



①管の軽量化

②挿し口突部
(ビード突起)

③内面塗装の変更

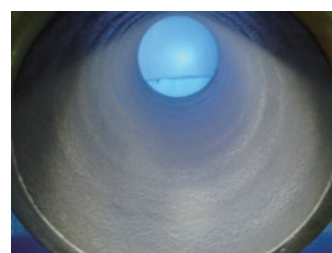


挿し口突部（ビード突起）

呼び径	75		100		150	
管種	NS形E種	NS形3種	NS形E種	NS形3種	NS形E種	NS形3種
管厚 (mm)	4.5	6.0	4.5	6.0	5.5	6.0
長さ (m)	4	4	5	4	5	5
質量 (kg)	44.4	59.0	68.8	75.7	118.0	133.0

- 離脱防止力 3DkN (D:呼び径)
- 継手伸縮量 管長の±1%
- 許容曲げ角度 4°

※ 設計水圧 1.3MPa



珪砂混合エポキシ樹脂粉体塗装



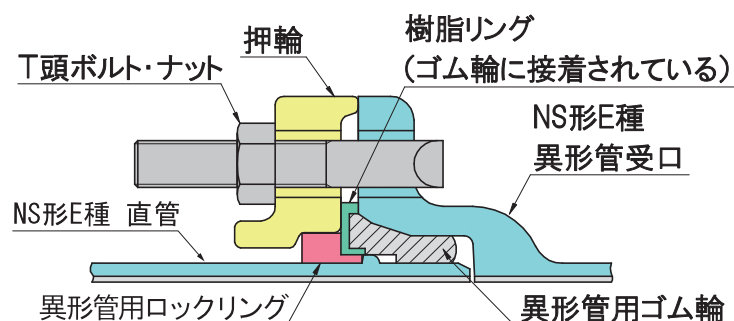
一般社団法人
日本ダクタイル鉄管協会

【異形管】軽量化・接合性向上の実現

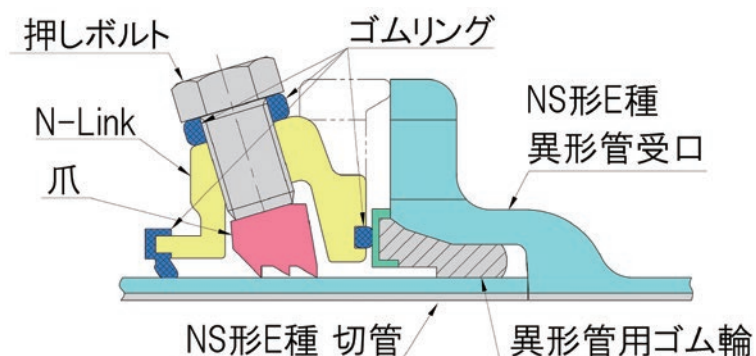
- ① 軽量化
⇒ ショートボディの実現
曲管の場合、質量約 40～50% 減
- ② 接合性向上
⇒ 挿入量の確認不要



異形管受口



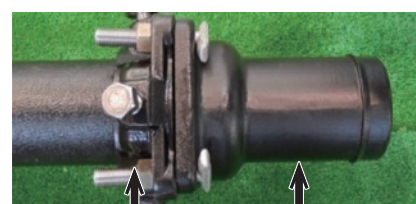
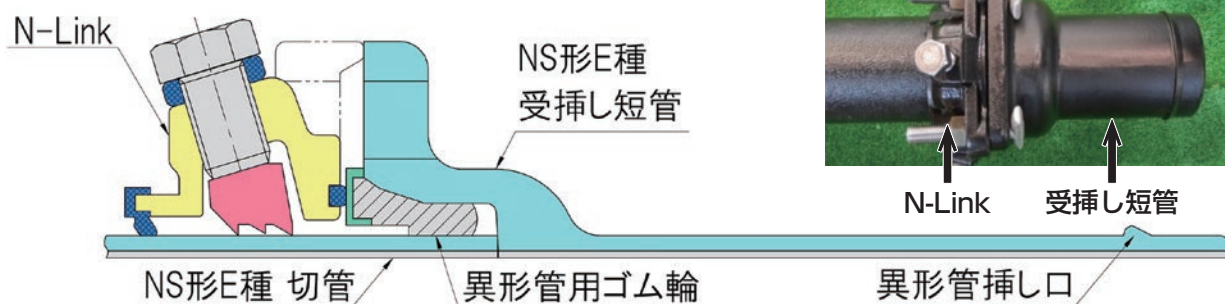
N-Link



※左図の N-Link を左側から見た写真

切管を異形管に接合する場合は、N-Link を使用

受挿し短管+N-Link



N-Link 受挿し短管

切管を直管に接合する場合は、受挿し短管+N-Link を使用